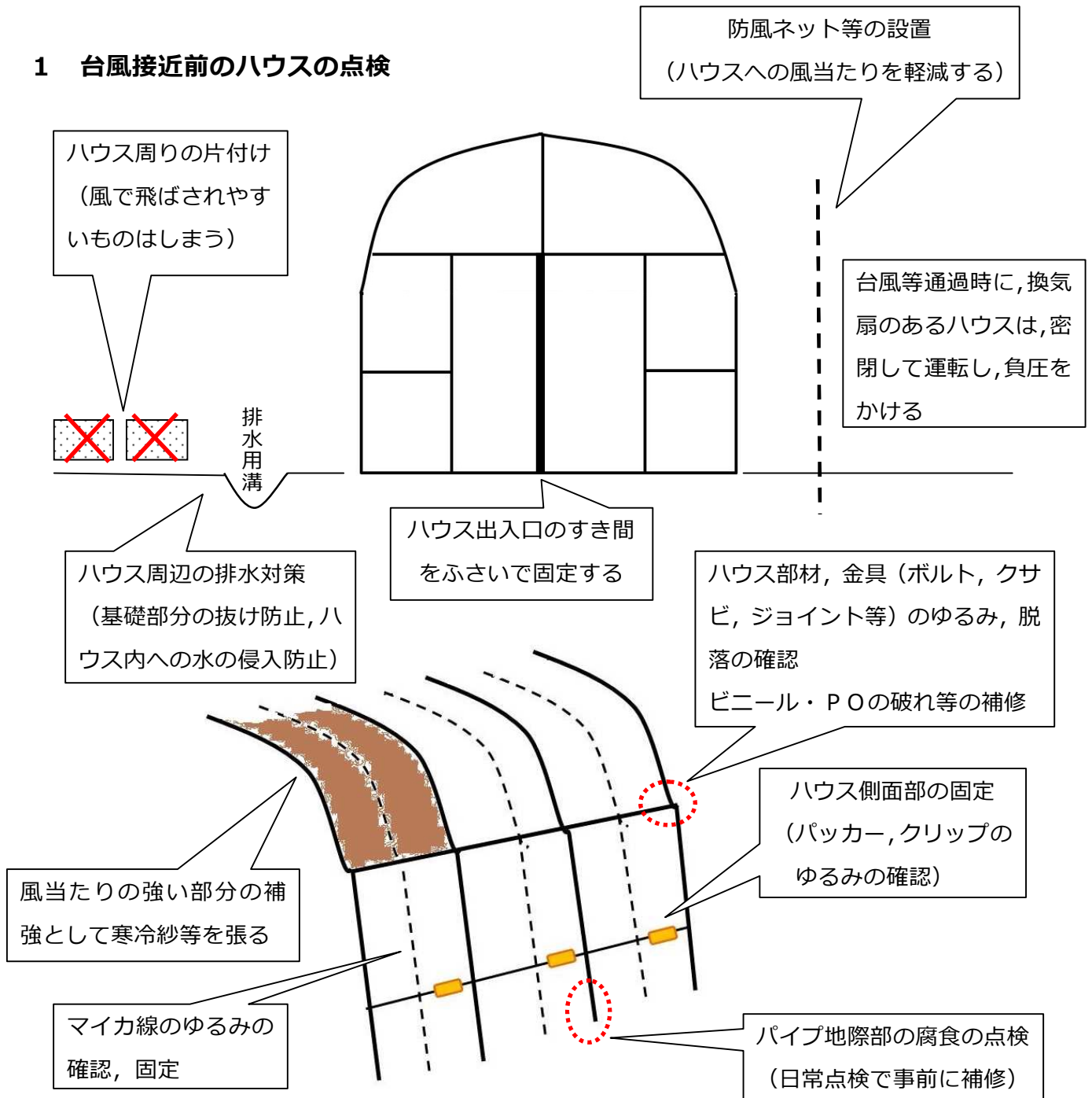


台風に向けて、ハウスの点検をしましょう！

最大瞬間風速30m/s以上を記録した昨年9月の台風15号により、鹿行地域のパイプハウスは甚大な被害を受けました。本格的な台風シーズンを前に、点検を実施し、被害を未然に防ぎましょう。

1 台風接近前のハウスの点検



ハウスの老朽化やパイプ地際部の腐食が進み、強風に耐えられないことが予想される場合は、事前にハウスビニールを剥がし、ハウスの破損を防ぐことも検討してください。

2 台風が通過した場合の対策・栽培管理

(1) ハウスの被害状況の確認

- ①台風通過後は早急に施設を見回り、被害の有無を確認する。
被害があった場合は、修繕・撤去等を行う前に、被災状況の写真（全体及び被災箇所、パイプの径がわかる写真等）を撮影する。
※台風通過時のハウス等の見回りは危険なので、絶対に行わない。
- ②ハウスの近くに電線がある場合は、電線が切れていないことを確認する。
ハウス近くの電線に物が引っかかっていたら、電力会社に連絡する。
- ③ハウス内や周囲の安全を確認し、早めにハウスの換気を行い、施設内の気温上昇を防止する。
- ④ハウス内が浸水した場合は、ポンプ等により早急に排水する。
- ⑤ハウスが破損し、修繕や破損物の撤去を行う際は、怪我に注意し作業を行う。
専門の技術を要する場合は、できるだけ業者の応援を要請する。

(2) 作物の管理

- ①施設内に雨水が浸水した場合は、直ちにハウス内外の排水を図るとともに、換気を行って湿度の低下に努める。
- ②作物が泥のはね上がり等で汚れた場合は、動力噴霧機等で洗い流す。
- ③作物が倒伏した場合は、草勢の回復を図るため、速やかに誘引し直す。
- ④浸水した場合は、作物の根が弱るので、液肥の葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- ⑤強風による茎葉の損傷や、ハウスを閉め切り高湿度状態が続くと病気が発生しやすくなるため、殺菌剤を散布する。
トマト（疫病・葉かび病）、イチゴ（炭そ病・うどんこ病）
ミズナ・ホウレンソウ・コマツナ・あさがお菜等（べと病・白さび病）
- ⑥台風通過後の急な日差しによるしおれや葉焼けに注意し、必要に応じて遮光ネットにより光線を抑制する。
- ⑦葉物類などの出荷の際は、傷んだ茎葉はていねいにとり除き、出荷後の腐敗やトロケを防止する。

詳細は、普及センターへお問い合わせください。

問い合わせ先	行方地域農業改良普及センター
電話番号	0299-72-0256